

広報



## こじょうめ

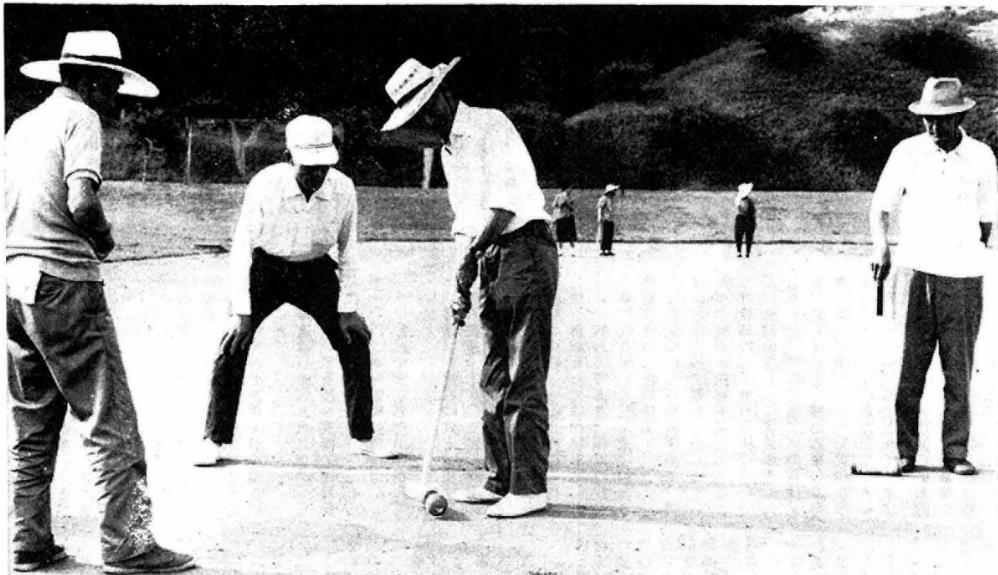
発行所 秋田県五城目町役場 編集 秘書課 電話(018876) 代 2100番  
 印刷所 湖東印刷所 電話(018876) 2430番 一部 5円  
 郵便番号 018-117 毎月 1日・15日発行

## 人口と世帯

世帯数	3,943世帯
人口	17,608人
内訳	{ 男 8,482人 女 9,126人

住民登録調 (49年6月末日現在)

転入・転出の場合はかならず窓口へ届出ください。



車社会の到来した数年前から、レジャーは国民の生活要素に大きな割合を占めるようになった。アリのように列をなす登山者たち、海は海で広大な砂浜を人影で埋め、青い海水を茶色に染めて浴びている。ふところが軽くなつた分だけ、身体の筋々に疲労の重みがくい込むといった具合で、本来のレジャーのあり方に遠くかけはなれていることは、人々の知るところである。しかも、これが家族ぐるみとはいはず、若人のエネルギーの発散場所にすぎない。老人たちには、およそ縁のない話で、いつもレジャーからは取り残されている存在である。石油危機以来、遠くへ出かける風潮もかげりを見せているが、ここで自分たちの住んでいるところで、より楽しめるレジャーのあり方を考えてみてはいかがでしょうか。そのためには、プールもグラウンドも必要でしょうが、現在ある施設をもっと効果的に運用する方法を考え出したいものである。

7月9日、公民館では老人にゲートボールの講習会を

## 老人とスポーツ

健康に結びつくレジャーを

聞いた。ゴルフからヒントを得たようなスポーツで、場所も大きく必要とせず、グランドの一角を利用するだけで結構楽しめる老人向きのスポーツである。当日の参加者は男女20名位であったが、初心者たちは思えぬ程上手で、指導の先生方をおどろかせた。今の老人は体が若いということであったが、このようなレジャー的なスポーツを通して、自分の健康を守り、友人を作りながら、老人特有の孤独な生活からの脱出をはかり、身心ともに明るい生活が出来る方向に結びつけていきたいものである。

「町づくり」というと、きまって道路と橋と工場誘致が出てくる。その必要性は否定しないが、それよりもっと先に考えなければならないものがある。それは私達の健康である。どんなに周囲が開発され、生活が便利になっても、病人の多い町ではなにもならない。「市民の健康」計画的でもレジャーに結びつけるこの単純な原則を守っていきたい。

化的な生活を営むこと」を欲している。この様な望ましい生活は、住民の日常生活の場であり、近隣社会の生活環境の整備と合わせて、住民の地域的な連帯感に基づく近隣生活が生まれて初めて実現される。然しながら今日、人々の生活圏の地域化、そして生活様式の多様化は、地域住民相互の結びつきが次第に希薄しつつあり、地域社会に対する無気力、無関心へと移行することを憂慮される昨今でもある。

本地区もモデルコミュニティの指定をうけ約一年間、自治活動計画の策定検討により組みようやく発足の運びとなりました。部屋談話を基調とした住民の共通の課題を共通の場で充分話し合い検討を重ねて地域共通の要望として調整し実践することを通じて、地域の連帯や住民の行政参加の意識を高めることができることに、コミュニケーションの大好きな意義があるものと考える。私どもが忘れていた深いところに、住みよい環境づくりを目指して「より豊かに、より潤いのある生活」をどのみなから皆んなで明るい町づくりに貢献し、ひいては「町ぐるみの話し合いでコミニティ」に発展させたいのである。



望ましいコミュニケーションの推進について

下山内 千葉 茂

**広報サロン**  
 ROOM Q





# うまい米づくり対策

## 心配される低温

七月上旬の低温によつて、稲の生育は停滞を示し、徒長傾向はややおさえられた感があるが、葉いも病も枯病は依然として警戒をゆめられる状態にある。

### ② 紋枯病

最近の低温経過によつて伸長は抑制されているが、今後天候が回復すれば急激な病害の伸長が考えられるので、出穗前の(有キヒツキ)防除を徹底し、後期発病の抑制をはかる。

### ③ 追肥

七月十五日現在、土壤栄養は各項目で病班密度の増加は停滯ぎみであるが、苗いもの持込み地帯や山間、山沿、あるいは遙畠では病班密度も増加しており、病害虫の防除が必要である。

④ 病害虫の防除

水、地温の調整や、根の健全化によつて登熟向上の基礎づくりをする。

⑤ 土地の整備

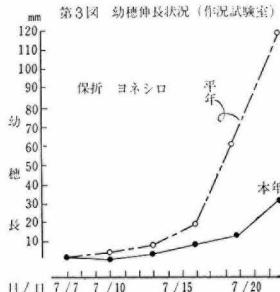
水、地温の調整や、根の健全化によつて登熟向上の基礎づくりをする。

⑥ 伸長抑制

水、地温の調整や、根の健全化によつて登熟向上の基礎づくりをする。

項目	草丈		m <sup>2</sup> 当り数	主茎	茎葉比	% %
	本年	前年				
雄 苗	66.3	59.8	12.9	1.04	-	-2%
雌 苗	93	14.9	-0.6	-	-	-
雄 苗	100	15.0	-0.1	-	-	-
雄 苗	106	12.2	-0.2	-	-3	-
保 折	64.0	4.87	12.7	1.05	-	-
雄 苗	89	1.12	-0.4	-	-1%	-
保 折	87	1.11	-0.3	-	-14	-
雄 苗	45年比(%)	10.2	9.3	0.3	-2	-
保 折	66.6	6.78	11.0	1.04	-	-
雄 苗	86	1.21	-0.6	-2	-	-
保 折	63.4	6.36	13.3	1.05	-	-
雄 苗	94	1.31	0	0	-	-
保 折	95	1.28	0.2	-1	-	-
雄 苗	45年比(%)	105	1.18	0.4	-2	-
保 折	60.7	5.61	13.1	1.05	-	-
雄 苗	88	1.20	-0.3	0	-	-
保 折	83	1.03	-0.1	-14	-	-
雄 苗	45年比(%)	100	9.1	0.4	-2	-
保 折	59.7	7.53	11.0	1.08	-	-
雄 苗	88	1.20	-0.6	-2	-	-

(注) 草丈実尺は7月20日草丈÷7月15日草丈×100



ただし、天候が回復したらまだちに浅水とし、深水の継続は決して行うべきでない。

また、遅くまで水路の整備するとともに、遅くまで水路の維持も出来るとともに、遅くまで水路の維持もする。

肥料の整備もする。

肥料の判定をする。

### 三、水管管理

穂ばらみ期から出穂期にかけては、もっとも水を多く要する時期であるが、反面、地温の上昇、呼吸の増大などと根のよわりやすい

時候でもある。したがつて、間断的に水を供給するよりも大雨に備えてすみやかに水を供給するとともに、水管補修器材の確立、準備、水の停滯が予想される地区では排水機材の整備してお

かく保護する。

冠水時に、少しでも葉先を水面上に出すように心がけ、退水後に

うずまきやかにいもち病、白葉枯病

黄化萎縮病、アフリトウ等の病害虫防除に万全を期す。

冠水時には、少しうまく經過しな

ればよい。一方、今後の追肥としては天候によっており、今後天候の回復によって夜温が高まつくると、追肥を行なつて、一般田で減數分裂期(出穗前十三日から十五日)、葉色低下の著しいも

のは、幼穗形成期以後に窒素成分の堆積とらんみ合せて、一般田で追肥を行なつて、減數分裂期(出穗前十三日から十五日)、葉色低下の著しいも

のは、幼穗形成期以後に窒素成分の堆積とらんみ合せて、一般田で追肥を行なつて、減數分裂期(出穗前十三日から十五日)、葉色低下の著しいも

のは、幼穗形成期以後に窒素成分の堆積とらんみ合せて、一般田で追肥を行なつて、減數分裂期(出穗前十三日から十五日)、葉色低下の著しいも

### 四、低温、台風、大雨などの異常気象

低温の情報に注意し、最高気温は22度以下、または最低気温

#### ○給水装置

給水装置はあなたの財産です。

#### ◆保育施設

#### ◆給水装置

給水装置は重要な資材です。

#### ◆配水管

#### ◆給水装置

#### ◆給水装置

給水装置は重要な資材です。

#### ◆保育施設

#### ◆給水装置

#### ◆保育施設

給水装置は重要な資材です。

#### ◆保育施設

#### ◆保育施設

給水装置は重要な資材です。

#### ◆保育施設



